

地域の結い・絆賞

おおだてかんきょうほぜんかい

大館環境保全会【栗原市】



本地域は、古くから農耕定住の跡が確認され、栗駒山を水源とする一迫沿いに水田が広がっており、江戸初期に整備された伊豆野堰により水田開発が飛躍的に進んだことにより、一迫川を本流としながらも昔川等からの豊富な水利を得て水田耕作が定着している。大館地区は栗原市一迫の東部に位置し、国道398号線をはさみ昔川付近より南は中山間地までの広がりを見せている。

【組織概要】 活動組織

- ・取組開始 平成19年度
- ・取組面積 96.0ha
(田 96.0ha)
- ・取組活動
農地維持支払活動
資源向上支払(共同)活動

取組にあたって

【課題】

農業従事者の高齢化や後継者の不足により、共同活動の参加者減少の歯止めと作業量全体の調整の中で、農地維持の継続が課題となっている。

【保全管理】

農業者個人での農地の維持・管理には限界が見えてきており、共同活動による農用地の維持・管理の重要性が切実に感じる状況である。地域全体としての農業振興・発展のために密度の高いコミュニケーションをベースに農業者・非農業者が共に地域の活動として実践できる人的環境づくりに努めている。



【植栽活動】

【外来種の駆除】

取組の内容

密度の高い地域のコミュニケーションを基盤としながら、共同作業及び担い手による営農活動の活性化により未来を切り開く農業地域の構築を目指して活動している。

■農村環境保全活動として、ため池の外來種駆除のほか、共同での植栽による美的景観の構築を実施。

■遊休農地の有効活用として、ソバの栽培やコスモスの植栽を実施。

■栽培したソバのソバ刈り体験やソバ打ち体験など地域交流も行っている。

■地区子供会に参加を呼びかけての生き物調査に取り組んでいる。

■地域住民との学習会等、農業者・非農業者が世代を超えて交流している。

■毎年、「おらほの自然探検記(生き物調査)」と「外來種駆除」の活動について、豊富な写真を掲載し、会員に配布。活動を通して地域を理解する貴重な資料であるとともにパンフレットとしても有効に活用している。



取組の効果

■高齢化、専門の農業従事者の減少により農地維持活動の参加者が減少する中でも、地域内での様々な交流活動を重ねてきた結果、後継者としての若手が参加する状況が僅かながら見られるようになってきた。

■農業者の配偶者や家族・児童・生徒が参加することで地域への思い入れ、農業への興味・関心、更には自然愛護・保護の気運が高まり、地域コミュニティ活動の活性化にもつながっている。

■後継者や担い手の不足による営農活動の不安も減少し、担い手による耕作面積の拡大が進んでいる。担い手の営農を間接的に支援しようとする当環境保全会の活動の成果の一つと言える。



【生き物調査】

【ソバ刈り】